

資料4 説教 三位一体

このテキストから語りたいとおもっていましたが、昨日の朝、行くことができました。午後には、私がコークを去る前に説教を書き、印刷に回したいと願います。それを今朝書くことができましたが、私は読者に自分が不利な立場にあるということをご容赦願いたいと思います。私は相談すべき本を何も持っていませんし、本を読む時間もないのです。

1775年5月8日 コークにて

証しするのは三者で、父と言葉と聖霊であります。この三者は一致しています。(Iヨハネ5章7節)

1. 一般の人々がどのようなことを考えていようと、意見は宗教ではありません。いいえ、正しい意見、一つ、また一万の真理への承認ではないのです。それらには大きな違いが存在します。西が東から遠いように、正しい意見は宗教とは異なるのです。人は意見においては全く正しいことはあるでしょうが、それでも宗教はもっていないこともあるのです。世においてはカトリックの方もおられる一方で誰がこれを疑うことができるのでしょうか。というのも、彼らの多くがトマス・ア・ケンピス、グレゴリー・ロペス、マルクィ・デ・レンティがそうであったように宗教的であり続けたことを否定する者はいないでしょう。彼らの多くは、現在も真実の内的なクリスチャンであるのです。しかし、何と危険な考えの塊を、彼らは伝統や教父から離れて、持っているのでしょうか。誰が、彼らは世においてカルヴァン主義者、絶対的予定の唱道者であるのにそれを疑うことができるのでしょうか。そして誰がこれらの唱道者が真実のクリスチャンではないと確認することができるのでしょうか。過去の世紀におい、彼らの多くは燃えており、輝く光であり、しかも神とすべての人類を愛しているのです。そしていかにこの世のカトリック教徒のばかげた意見は、愛の神、賢さ、正しさ、すべての体の霊において憐れみ深い方が、永遠から、絶対的で、不可抗力の恵みにおいて人類の一部のみが救われるべきで、彼らが望むことを行い、他は、地獄に落ちるように予定されているということはいかなるものでしょうか。

2. それ故、私たちは、率直でひとかどの人も考え、考えるべき真実の宗教と両立する多くの誤りがあると推論することができるのです。しかし他のものよりも重要な真理というものがありません。さらに重要なことがあるのです私はそれを根本的な真理とは言いません、というのもそれは曖昧な言葉でもあるからです。また、根本的と言われていることの間にも様々な議論があります。しかし確かに、私たちが知るべきことがあり、決定的な宗教と緊密につながっている概念があります。疑いなく、これらの中に上に引用した言葉を含むものもあります。天国において記録されている3つのものは、父、言葉、聖霊です。そしてこの3つは一つです。

3. 私はこれらの言葉を解明する為に、この言葉やあの示唆を信じるのが重要であると言っているわけではありません。私はよく判断できる人でさえ、それらを説明しようとするかどうか分かりません。偉大な人 ディーン・スィフトが書いたすばらしいトラクトは三位一体に関する説教でした。そこにおいて、彼は、それを説明しようとしなないものは、彼らの生き方を見失っ

ている者であり、結局、彼らがそれを推し進めようとしていたところの原因を他者が傷つけてしまい、ヨブが語るように「知識もなく言葉によって相談しようとするものに闇をもたらした」のです。これらの説明者が彼らの実りのないわざをはじめたのは邪悪だった時であり、私はそれを説明しようとは思わないのです。いいえ、私が見た最高のものでも、つまり、一般にアタナシウスと一致する形で述べられているものです。このことを承認しない者は誰も、疑いなく永遠に滅びるということをおうとしているわけではありません。そのために、また別の理由で（1）これらの句のみが、意図的ですが、不本意に神を拒否する不信仰者、真理を知る手段を持っているのに、それにもかかわらず拒否する人々と関連づけられること（2）彼らはそこで、提示されたものの、哲学的な例示ではなく教理の本質のみと関連づけたという心情に従うことをためらいます。

4. 私は誰かが三位一体、人格という言葉を使用すべきだと主張しているわけではありません。私は、それよりも良い用語を知らないでそれらをためらいなく用います。しかし、誰かがそれを用いることにためらいを感じるならば、誰がそれらを使用することについて彼を強制できるでしょうか。私にはできません。私が神が父であり、子であり聖霊であると信じているけれども、三位一体や人格という言葉を使用するのにためらいを感じるのです。なぜならばこれらの言葉を聖書に見いだせないからです。これらは、憐れみ深いジョン・カルヴァンがセルビトゥスが自分への手紙の中で書いたものを引用したものです。私は、テキストの中にある説明されてはいませんが直接的な言葉のみを主張します。「天国の記録を持っている3つのものがあります。父、言葉、聖霊です。そしてそれらは1つです。」

5. -それらはテキストの中にあるのですが、ここに問いが起こってきます。そのテキストは純粋なものでしょうか。それは本来使徒によって記されたものでしょうか、それとも後の時代のものでしょうか。多くの人がこれを疑っています。特に、キリスト教会の大きな光であり、後に天にある教会へとあげられた、ベンガルは、新約聖書の注釈者の中で最も敬虔であり、最も分別があり、努力家でありました。ある時には、彼は、写本が欠けているところから正当性に疑問を持ちます。（1）確かに多くの写本を欠けてはいますが、かなり多くの写本が発見されており、これらの写本は最も偉大な権威を持っています。（2）それはヨハネからコンスタンティヌスの時まで昔の著者によって引用されている。議論は反論の余地がない、というのももし彼らが引用しなかったらそれは聖なる正典とはならなかったとうものでした。（3）私たちはその存在を簡単に説明できます、その時以降は、写本を欠けてはいても、私たちがコンスタンティヌスの後継者が、どんな手段を用いても邪悪な原因を広めようとした嫉妬深いアーリア主義であったことを考えれば、彼らの手よりこれらの写本を消し去ることもできたはずで、そして彼らが支配している限り、彼の生きた時代は、共通に、「アーリア主義の時代」と名付けることができるのです。しかし、自分の命をかけて彼らに反対した唯一の人物であったのです。それ故に、それは、重要な言葉「世に反対するアタナシウス」と記されています。

6. しかし、それは反対を受けました。「何がテキストになろうとも、私たちが理解できるとは思わない。だから、あなたが神秘的なことを信じるように要求する時に、あなたは、私たちを除外することを祈ります」と語りました。ここには2つの誤りがあります。

(1) 私たちはこれについて神秘を信じるように要求することはありません。あなたは全く反対のことを仮定しているだけです。(2) あなたはすでに理解できないことを信じています。

7. 後者から始めてみましょう。あなたは理解できないことをすでに信じています。あなたは頭上に太陽があると信じています。しかし太陽が太陽自体のシステムの中に立脚しているかどうか、自分自身を軸に回転するか、または、この巨大なものが、好き勝手に自分の進むところを動くかどうか、あなたはどちらであるかを理解することはできません。いかに太陽が動くか、いかに動きをとめているか、どのような力において、自然の力、機械的な力において、液体の中でどれくらい持ち上がるのか。あなたは事実を否定することはできません。いかなる合理的な調査においても満足するにはそれを説明できません。あなたは実に、プトレマイオス、ティコ・ブラヘ、コペルニクスやその他20人の仮説をあげるかもしれません。私もそれらを繰り返し読みました。飽き飽きしました。彼らすべてをもってしても無価値です。

そこでは新しい解決がしたとしても、ふたたび新しい用語がおこり、言葉に足かせをつけてしまうことが起こります。外側を観察して問いを受け取り、自分が持ったと同じような疑問を呈します。私は、あなたが信じる真実を主張します。あなたは否定できません。あなたが理解できないどのような方法においても。

8. あなたは光があることを信じています、それが太陽からあふれてくるのであれ、他の照らす物からくるのであれです。しかしその本性においてどちらからかくるのか、またそれが、どのようにして光を反射しているかについて知ることはできません。なぜ光が木星から地球まで8分で届くのか。20万マイルを瞬間で移動するのでしょうか。ろうそくの光は、部屋にもとらされ、隅々に広がるのでしょうか。再び、ここに3つのろうそくがありますが、光は1つだけです。私はこのことを説明したいと思います。3つにして一つの神を説明します。

9. 私たちは空気があることを信じています。その本質の満足いく説明をできますか。空気はあなたを覆いとして覆い、広くしみこんでいるのです、またそれはこのすばらしい色をした地球を覆っているのです。でもいかにしたらそれを理解できるのでしょうか。その本質、その成分について満足いく説明をすることができますか。その一つ、弾力性を考えてみましょう。この説明ができますか。それはその微粒子に付着している電気的な炎によるものかもしれませんし、そうでないかもしれませんが、それをあなたも私も言うことは出来ません。しかしそれを理解するまで空気を呼吸できないとしたら、私たちの命はすでに終わりを迎えることとなります。

10. あなたは地球があることを信じています。そこにあなたは足をつけています。それによってあなたは支えられているのです。しかしあなたは何が地そのものを支えているかを理解していますか。象ですとマラブの哲学者は答えました、水牛がそれを支えているのだとも。では何が水牛を支えているのでしょうか。インド人も英国人もそれに対する答

えは持っていません。私たちは、「何もなかった土地を北に広げ、何もなかったところに地球をひっかけられた」ことは知っています。それは事実です。しかしどうしたらそうなるのでしょうか。誰がその説明ができるのでしょうか。投影とか引力の力に関して語ることが可能なことはしています。しかし、かなりよく出来るとしても、地球は回転しているのです。事実は、くもの巣のような仮説を吹き飛ばしてしまうのです。投影と引力の力を、あなたができるだけ関連づけることができるのでしょうか。でもそれらは決して巡回する動きを生み出さないのです。磁力に惹かれて発射された鋼鉄がその中に入ろうともそれは曲線を描きません、落下するのみなのです。

11. あなたは魂を持っていると信じています。「そこで待っていなさい」と医者はいいます。ブロール博士は最近のトラクトで、「私はそのようなものは信じない。」と語っています。もしあなたが実態のない魂をもっていたとしたら獣も持っているのです。私は自分で魂を持っていると思っている人と争おうとは思いません。いいえ、その人がそれを証明できたらなあと思います。そうしたら私が自分の魂をあきらめても、彼らが魂を持つことを確かに許せるのですが、これについては率直な異端である *Si erro, libenter erro; et me redargui valde recusem*. 「もし私が過るとしたら自発的に間違うであろう。私がそれによって説得されることを絶対拒否する」ようなものです。三位一体を信じない人は同じ精神であると信じます。続けることを許してください。あなたは土の家につながる魂を持っています。しかしいかんということを理解できますか。天の炎を地上のかたまりとつなぐものは何なのでしょう。あなたは事柄の何もわかっていません、そうなのです。しかしどのようにということとは誰も語れません。

12. あなたは、自分の魂とともに肉体を持っていること、両者は相互に信頼しあっていることを信じているでしょう。もしとげをあなたの手突き刺してごらんください。即座に痛みがあなたの魂に感じられるでしょう。別の面では恥が魂に感じられるのでしょうか。即座に頬が真っ赤になるでしょう。魂は恐れや凶暴な怒りを感じるのでしょうか。現在は体が震えています。あなたが否定できない事実があるのです。あなたはそれを説明できないのです。

13. 私はもうひとつ例を示したいと思います。あなたの魂の命令があれば、あなたの手は持ち上がります。でも誰がそれについて説明できるのでしょうか。心と外側の行動との関連があるからでしょうか。いいえ、誰も筋肉の動きについて、どの例においても全く説明できないのです。英国の天才的な物理学者が、頭に関する講義を終えた時、彼は「さて、紳士の皆様、この啓蒙時代においてすべての発明を語りましたが、もし、あなたが、物事のわずかでも理解できるならば、あなたは私よりも理解していることになります。物事の不足はこのことです、つまり、彼らが理解できること以外は何も信じない人は、大空に太陽があることも信じないに違いありません、つまり彼らのまわりに輝く光、それがどの側面においても包みこんでいようと空気も信じない、彼らがその上に立っているにもかかわらず、地の上で起こるものも信じないのです。

- 1 4. しかし、第2に、それが不思議に思えるのですが、あなたが信じるように要求しているのです。天において記録されるものに、父、言葉、聖霊があります。そしてこの3つは一つなのです。あなたはいかなる神秘も信じるようには要求されていません。いえ、あの偉大で素晴らしい人、ペーター・ブラウン博士は、ある時コークの主教でしたが、「聖書は神秘的なものを信じるようには多くの部分で要求していない」と語っています。聖書はそのような事実を信じるようには要求しますが、その方法をも信じるというではありません。さて、神秘は事実の中にはありません、その方法の中にあります。たとえば、神は光あれと言われました。そして光があったのです。私はそれを信じます。私は明白な事実を信じます。この中には神秘性はありません。神秘はその方法の中にあるのです。でもこれについて私は何も信じていませんし、神はそれを私に求められてはおられません。再び「言は肉となった」と言われます。私はこの事実も信じています。その中には神秘的なものはありませんが、いかに彼が肉となったかということに神秘は存在するのですが、私は何も知りません、それについては何も知りません。それは、私の理解することであり、信仰の目的ではないのです。
- 1 5. これを私たちの前にあるケースに適用しましょう。天国において記録できる3つのものがあります。そしてこの3つは一つです。わたしはこの事実を信じます。(もしこの表現を使いならば)、神は3つにして一つなる方です。しかしそれがいかなるものであるは私には理解できず、それを信じていません。さて、この点においては、その一つである方法において、神秘性があります。そしてそうである限り、それに対する関心はありません。それは私の信仰の対象ではないのです。神が示されるのですから、その限り、そのように私は信じています。それ以上のものは信じません。しかし、これは、その方法は、神はそれを示されていません。ですから私はそれについて何も信じません。しかしその方法を知らないから、事実を否定することはばかげたことではないでしょうか。つまり、神が啓示したものを拒否することは、まだ彼が啓示していないことを私が理解しないためです。
- 1 6. これが観察すべきことです。「目でみず、耳がきかずとも、心の中に入って人が考えるようになる」ことがあるのです。この一部については、「神が聖霊によって私たちに示されたものです。」「啓示された」つまり、覆いをとられた、はがすということです。その部分においては、神は私たちに信じるように求められます。それらの一部分は主はまだ示されていません。それを私たちは信じる必要もなく、信じることもできません。それは私たちを超越しているもの、私たちの視野の外にあるものです。さて、すでに啓示されたものを拒否する知恵はどこにあるのでしょうか。まだ示されていないものをまだ理解していないからでしょうか。まだ覆いがあるものの方法を見ることができないから神が覆いをとられたものを否定しているからでしょうか。
- 1 7. 主が自分の頭の中に喜んで啓示されることを考察する時に、主は無関心ではあられないということが最後に重要なことです。それはキリストの最も中心に入るようなも

のです。それは重要な宗教の中心にあるものであり。これら3つが一つである限り、いかにして「すべての人は子の名誉を褒め称え、父の名誉を褒め称えることができるでしょうか。私は何をなすべきか知りません。とソシニウスは彼の友人への手紙に書きました。彼の穏当さを欠く追随者、彼らはイエス・キリストを礼拝していないのです。私は彼らに対してそれが「神のすべての天使たちよ、礼拝せよ」と書かれてあることを語りました。彼らは、「書かれていたとしても、もし彼が神でなければ、彼を礼拝しない」というのです。しかし、実際は「神である主を礼拝せよ、彼にのみ仕えよ」と書いてあるからです。

18. そのクリスチャンもこれと反対のことを信じているわけではありません。まず、20人に一人はそうでないでしょう。しかし、もしあなたが彼らに問いをするならば、彼が信じる通りであることを簡単に見出すでしょう。それ故に、3つにして一つであることを否定する人が、生き生きとした宗教を持っているとがいかに可能であるかを見出すことはできません。そして私の彼らに対する希望は不信仰の中でも救われるというのではなく（率直な異端の立場にたって、克服できない無知の嘆願において）、神が、彼らが行くところにおいて、「真理の知識をもたらしてくださる」ということにおいてです。